

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 100 号

2014/07/07 発行
株式会社 立花商店
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを 5 本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：両市場とも週を通して続落＝コートジのカカオ豆着荷量が高水準

① 最高：9月 LDN 市場£1,948 /9月 NY 市場\$3,127 (6/30) 先週比 **LDN -£10/NY -\$8**
② 最低：9月 LDN 市場£1,924 /9月 NY 市場\$3,106 (7/4,7/3) 先週比 **LDN+£14/NY+\$63**
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場£11 (傾向↑) / NY 市場\$13 (傾向↑)
週内建玉推移：LDN 市場 279,316 枚(6/27 終了時)⇒276,383 枚 (7/3 終了時) **-2933 枚**
NY 市場 217,099 枚(6/27 終了時) ⇒216,335 枚 (7/2 終了時) **-764 枚**

【6月30日(月)】両市場とも反落

ニューヨーク市場は、コートジボワールの港へのカカオ豆着荷量が高水準になっていることから反落。9月きりは8ドル(0.3%)安の**3127ドル**で終了した。ロンドン市場も反落し、9月きりは10ポンド(0.5%)安の**1948ポンド**で引けた。

【7月1日(火)】両市場とも続落

ニューヨーク市場は続落し、9月きりは8ドル(0.3%)安の3119ドルで終了。前日には一時、数年ぶりの高値まで上昇したものの、コートジボワールのカカオ豆着荷量が高水準なことからマイナス圏で引けていた。ロンドン市場も続落し、9月きりは13ポンド(0.7%)安の1935ポンドで終了。

【7月2日(水)】両市場3日続落

ココア先物は3日続落。コートジボワールからの出荷量の多さに圧迫された。

ニューヨーク市場の9月きりは、2ドル安の3117ドルで引けた。週明け30日には、3年ぶり高値の3142ドルを付けていた。ロンドン市場の9月きりは、4ポンド安の1931ポンドで引けた。

【7月3日（木）】両市場4営業日続落

4営業日続落。9月きりは一時3149ドルと、強いチョコレート需要を背景に2011年8月以来の高値を付けたものの値を消し、11ドル安の3106ドルで引けた。

ある市場関係者は「チョコレート消費は好調だ。東欧、中国、インドといった地域は2桁のペースで伸びている」と語った。ロンドン市場の9月きりは4ポンド安の1927ポンドで引けた。

【7月4日（金）】ロンドン続落=NYは休場

ロンドン市場の9月きりは続落。3ポンド安の1924ポンドで引けた。第2四半期のカカオ豆圧砕高が10日に公表されるのを前に、ディーラーらが様子見となる中、狭いレンジ内で推移した。

圧砕高は前年同期比ほぼ変わらずから2%増と予想されている。

ニューヨーク市場は、独立記念日の祝日のため休場だった。

2、コートジ：カカオ豆産地、先週の大雨がメインクropp期生産に寄与(7/1)

コートジボワールの農家が30日明らかにしたところによると、カカオ豆主産地で先週降った大雨は、10月に始まるメインクropp期の生産を押し上げる見込みだ。一方、病害がミッドクropp期（4～9月）の生産に打撃を与える可能性があるという。

同国は現在ミッドクropp期の最中で、今シーズンの生産量は過去最高を記録すると予想されている。カカオ豆国際価格は先週、約3年ぶり高値を付けた。チョコレート需要の増加を受け、今後数年間でカカオ豆が供給不足に陥るのではとの懸念が背景。

3、アジア：バターレシオは7カ月ぶりの高値を維持、パウダー価格は再び下落(7/3)

需要の指標となるアジアのココアバターレシオは今週、供給不足を背景に依然として高く、ここ7カ月での最高水準を維持している。しかしパウダー価格はここ最近の反発のあと、再び下落した。

バターレシオは2.47から2.5となりここ2週間ではほとんど変化がない。

通常パウダーはバター価格とは逆の動きを見せる。現在のパウダー価格はトンあたりUSD2,000を下回っている。

シンガポールのディーラーは「ここ最近、パウダー価格については非常に強い圧力がかかっている。個人的にはパウダーはUSD2,000以下で取引され、場合によってはUSD1,600～1,800になると思う。」と述べた。

アジアの一部の圧砕業者はパウダーの在庫を減らすために、生産を調整している。また、インドネシアにおいてはカカオ豆不足も生産調整の原因となっている。

通常レシオと先物価格は反対の動きをするので、バターの需要増でロンドン先物価格やNY先物価格の高騰を和らげている。

マレーシアの第1四半期の圧砕量は昨年6万2,359トンから13.6%減少した。しかしアジア・ココア協会(CAA)によると、マレーシア、インドネシア、シンガポールの合計の圧砕量は3.7%上昇となっている。

4、最大手バリーカレボー、売上高上昇率が減少(7/3)

世界最大手のチョコレートメーカーのバリーカレボーによると、売上高の上昇率は5月までの9カ月で2.4%下落した。ネスレやユニリーバ、モンデリーズにチョコレートを供給している同社は、大手食品メーカーからのチョコレート生地の外注生産により利益を得ている。

しかし、ここ数カ月のアウトソーシングの受注の低迷や、欧米市場での価格志向トレンドによりバリーカレボーの売上成長率はここ数年の中でも下落している。また、下落しているパウダー価格も積極的な生産拡大を妨げている。

バリーカレボーのSteinemann氏は文書の中で「我々が利益率を上げることにこだわる為にも、先進国市場での利益率の高いビジネスに注力しなければならない。」と述べた。

同社の指標によるとここ9カ月の売上高は2.4%上昇した。これは目標としている年間6~8%アップを下回っている。ちなみにペトラフーズの買収による効果も考慮すると、売上高上昇率は15.8%になる。

財政部門の長官であるBalli氏は不調の要因として、パウダー価格の下落によりパウダーの販売をしぼり、代わって利益性の高いビジネスに傾注してきたことを挙げた。Balli氏は「成長スピードの遅れについて、もう一つの理由はここ数カ月、大きなアウトソーシングビジネスを受けてこなかった。しかし今は数件の案件の予定がある。」と述べた。

産業用製品だけでなく、バリーカレボーはレストランやパン屋、ケータリングサービスも運営しており、これらは高い利益率をとっており9カ月で6.9%も上昇した。Balli氏は「グルメ志向ビジネス新興国市場は伸び続けるだろう。」と述べた。

バリーカレボーは中期目標を「年間6~8%成長」と定め、2015/16期までに利益率を以前の水準に戻すことを目指している。

5、インドネシア：スラウェシ島産カカオ豆輸出、6月は前年比40%減(7/4)

インドネシア・ココア協会(ASKINDO)が3日公表したデータによると、同国のカカオ豆主産地スラウェシ島からの6月のカカオ豆輸出量は46,561.13トンとなり、前年同月(77,733トン)から40%減少した。

2014年の合計輸出量は前年よりやや増加し15万トン前後となる見通し。国内の圧砕能力が拡大したことで、輸入需要が強まるとみられる。一方、14年のカカオ豆生産量は前年比最大9%増の50万トンの見込み。

6、コートジ：大雨でサンペドロ港への道路が通行止め(7/5)

コートジボワールの輸出業者が4日明らかにしたところによると、数週間降り続いた大雨で道路に被害が及び、サンペドロ港への輸送ができなくなっている。この影響で、サンペドロ港の輸出分がアビジャン港へ振り替え輸送されており、混雑への懸念が強まっている。

サンペドロとカカオ豆主産地のソブレ、ドゥエクエ、ギーリョなどを結ぶ幹線道路は洪水で冠水し、先週から通行止めとなっている。トラックの行き先をアビジャン港に振り替える動きがあるが、輸出業者は混雑リスクを指摘。「アビジャン港だけで、国内で生産した全てのカカオ豆を輸出することはできない」と話している。サンペドロとアビジャンを結ぶ主要沿岸道路も、降雨による大きな被害を受けている。コートジボワール道路公団によると、これら2道路の完全復旧時期は不明。

7、欧州：カカオ豆圧砕予想、第2四半期は前年とほぼ同水準(7/5)

トレーダーらが明らかにしたところによると、今年第2四半期の欧州のカカオ豆圧砕量は、前年同期（31万0188トン）とほぼ同水準になると予想されている。ココアパウダーの需要の弱さと世界的な生産能力過剰を受けた工場マージン（加工利益）の低下が背景。トレーダーらによると、マージン拡大のため一部の工場では作業ペースを落とした。大量のココアパウダーの在庫削減を図る動きもあるという。カカオ豆加工会社、ユーロマーのジョンソン最高経営責任者（CEO）は、「ココアパウダーの在庫は、売り手の重荷になっている」などと説明した。

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp